

日本語・イタリア語における 温度形容詞の比較対照研究

古 浦 敏 生

§1 はじめに

筆者はここ数年来、日本語とイタリア語との比較対照を研究テーマとしている。本稿では温度形容詞に着目して検討を進めてみたいと考えている。このような経緯の中で、現代日本文学の人気女性作家、吉本ばなな（注1）の作品の日本語原文（注2）とそのイタリア語訳（注3）とを対比させながら読み進んでいくうちに、下記の箇所に遭遇した。（例1a）・（例2a）・（例3a）・（例4a）・（例5a）・（例6a）は日本語原文、（例1b）・（例2b）・（例3b）・（例4b）・（例5b）・（例6b）はそれぞれのイタリア語訳である。併せて出現ページ数も明記しておくことにする。

（例1a）ちょっと冷たい空気の日に上着を持たなかったくらいでも、つぐみは倒れる。

【TSUGUMI p.109】

（例1b）*se soltanto dimenticava a casa la giacca in un giorno in cui l'aria era un po' fresca*, Tsugumi cadeva malata. 【TSUGUMI 伊訳 p.76】

（例2a）冷たい空気が刺すような中、その澄んだ声は夜によく映えた。【白河夜船 p.113】

（例2b）*Quella sua voce chiara risuonò nella notte, in quell'aria fredda e pungente*. 【白河夜船 伊訳 p.74】

（例3a）TVを見ていた部屋の明度や…せんぷうきの生ぬるい風の具合だけが生々しくよみがえってくる。【TSUGUMI p.81】

（例3b）*La luce della stanza in cui guardavamo la Tv, …l'aria calda che arrivava dal ventilatore…questi sono gli unici ricordi che mi tornano alla mente vividi*. 【TSUGUMI 伊訳 p.58】

（例4a）なまぬるい風が明けっぱなしのドアから入ってきて、エアコンの空気と混じりあうのがわかった。【N.P p.204】

（例4b）*Mi accorsi che un vento tiepido, entrando dalla porta lasciata aperta, si mischiava con l'aria fredda del condizionatore*. 【N.P 伊訳 p.149】

（例5a）暖かい空気の中、その雨は落ちてきた。【アムリタ上 p.71】

(例 5b) *La pioggia cadeva incantevole nell'aria calda* 【アムリタ上 伊訳 p.43】

(例 6a) 熱い空気がじつりと汗ばんだ全身を包んでいた 【N.P p.130】

(例 6b) *C'era solo la sensazione dell'aria calda che avvolgeva il corpo ricoperto di sudore.* 【N.P 伊訳 p.97】

(例 1a)・(例 2a) では、ともに同じ温度形容詞「冷たい」が同じ名詞「空気」を修飾している句構造であるが、(例 1b) では「fresco」が、(例 2b) では「freddo」が用いられている。また (例 3a)・(例 4a) では、ともに同じ温度形容詞「なまぬるい」が同じ名詞「風」を修飾している句構造であるが、(例 3b) では「caldo」が、(例 4b) では「tiepido」が用いられている。さらに (例 5a)・(例 6a) では、それぞれ異なった温度形容詞「暖かい」・「熱い」が同じ名詞「空気」を修飾している句構造であるのに、(例 5b)・(例 6b) では、ともに同じ「温度形容詞+名詞」(*aria calda*)で訳されている。

このように、日伊両言語間では温度形容詞の用法にズレが生じているように思われるので、次節以降、吉本ばなの 8 作品とその伊訳を資料として、対応の見られる用例を可能な限り収集し、そのズレの様態を精査することとした。

§2 先行研究

日伊両言語間での比較対照研究はまだ緒に就いたばかりであって、温度形容詞に関する研究は現段階では見られないように思われる。

温度形容詞比較対照の先行研究として、日本語と英語に関するものではあるが、國廣哲彌「語彙の構造の比較」で提示された図(注 4)が参考になる。

第 1 図

cold	ツメタイ	サムイ
cool		スズシイ
warm	アタタカイ	
hot	熱イ	暑イ

第 1 図から、“日本語の温度形容詞は、体の一部（たとえば、指先など）で感じられる触感温度としてのツメタイ・アタタカイ・熱イと、体全体（たとえば、室内の気温、など）で感じられる体感温度としてのサムイ・スズシイ・アタタカイ・暑イとで構成されているということ”、“英語の温度形容詞 *cold* は日本語のツメタイとサムイに、*cool* はツメタイと

サムイとスズシイに、**warm** はアタタカイと熱イと暑イに、**hot** は熱イと暑イに、それぞれ対応していること”、などが分かる。

國廣氏は別のご著書(注5)で、温度形容詞を取り扱う際、比喩的なものを別にすべきであることに触れておられる。

次に、日本語の温度形容詞に関する先行研究として日下部文夫「語彙に構造があるか… 相関体系をめぐって…」(注6)を挙げねばなるまい。日下部氏は「熱い」・「冷たい」・「暑い」・「寒い」・「温かい」・「ぬるい」・「暖かい」・「涼しい」の8種を六面体の八つの角に配置し、その構造について詳しく論じておられる。

イタリア語の温度形容詞としては、(例1b)～(例6b)に登場するものが基本的なものであると思われる。すなわち、温度の低い順に列記すると、**freddo**→**fresco**→**tiepido**→**caldo**ということになる。このほか、**gelido**「猛烈に寒い、非常に冷たい」もないわけではないが、これは「氷のように冷たい」という意味であって、これに対応する日本語形容詞としては「凍てつくような」・「しばれる(方言形)」といったものとなり、対応を検討する上での基本的な形容詞とは言いがたい。また、**bollente**「猛烈に熱い、煮えたぎるような」もないわけではないが、これは元来**bollire**「煮える」の現在分詞であるので、本来の形容詞ではない。

§3 方法論と用例

本稿では國廣氏のご指摘のように、実質的な温度差の表現を中心に扱うこととする。但し、比喩的な表現に関しては第5節で別途検討することとする。

本稿で取り扱う日本語の温度形容詞は、第1図に提示された「冷たい」・「あたたかい」・「熱い」・「寒い」・「涼しい」・「暑い」の6種に、日下部氏が提案された6面体の一角の「ぬるい」を加えた合計7種とする。但し、「あたたかい」と「ぬるい」は触感温度と体感温度の両方に関わっているので、枠組み全体としては、(1) 触感温度としての「冷たい」・「ぬるい」・「あたたかい」・「熱い」の4種と、(2) 体感温度としての「寒い」・「涼しい」・「ぬるい」・「あたたかい」・「暑い」の5種との合計9種となる。なお、「あたたかい」には「温かい」と「暖かい」の2種があるが、両者の使い分けに関してはやや曖昧な点も見られる。そこで本稿では、國廣氏の第1図にならって、「あたたかい」としてまとめておきたい。また、「なまぬるい」は「ぬるい」に、「なまあたたかい」は「あたたかい」に、「肌寒い」は「寒い」に、それぞれ含めて考察することとする。

本稿で取り扱うイタリア語の温度形容詞は「**freddo**」・「**fresco**」・「**tiepido**」・「**caldo**」の4種とする。

以下、触感温度と体感温度に分けて、日伊両言語間で対応関係の見られる用例を提示していく。なお、同じ句構造のものは1回のみ提示とする。用例の順序は「日本語の温度形容詞と直接関わる被修飾語としての名詞(具体的な名詞が現われない場合は「気温」を

それとする)」の語頭音の五十音順とする。

(1) 触感温度

① 「冷たい」と「freddo」

足が自分のものではないように冷たかった【アマリタ下 p.239】 I miei piedi così freddi da non sentirli più miei 【p.275】

冷たい風【N.P p.140】 un vento freddo 【p.104】

冷たいコンクリート【アマリタ上 p.161】 cemento freddo 【p.90】

冷たい水滴【TSUGUMI p.194】 le fredde gocce di pioggia 【p.130】

冷たいビニールのソファ【アマリタ上 p.19】 freddo divano di plastica 【p.14】

冷たい手【ハードボイルド／ハードラック p.88】 la sua mano fredda 【p.55】

冷たい日本茶【キッチン p.30】 tè freddo 【p.21】

冷たい枕【とかげ p.92】 cuscino freddo 【p.62】

冷たい水【TSUGUMI p.125】 acqua fredda 【p.87】

床がひんやりと冷たくて【アマリタ下 p.166】 il pavimento era freddo 【p.238】

いつも冷たい指【ハードボイルド／ハードラック p.61】 le sue dita sempre fredde 【p.41】

② 「冷たい」と「fresco」

冷たい風【アマリタ上 p.116】 vento fresco 【p.69】

③ 「ぬるい」と「tiepido」

うどんはまずくてぬるく【ハードボイルド／ハードラック p.19】 gli *udon* erano pessimi, tiepidi 【p.14】

ぬるいビール【アマリタ下 p.38】 una birra tiepida 【p.171】

ワインぬるいけどおいしい【N.P p.216】 Questo vino è tiepido ma buonissimo. 【p.157】

④ 「あたたかい」と「tiepido」

なまあたたかい足【TSUGUMI p.127】 quel suo piede tiepido 【p.88】

あたたかい雨【キッチン p.14】 la pioggia tiepida 【p.13】

(カツ丼が) あったかい【キッチン p.155】 un po' tiepido 【p.91】

⑤ 「あたたかい」と「caldo」

(萃は) なまあたたかい鼻血を出したりする【N.P p.102】 Sui perde dal naso sangue caldo 【p.79】

⑥ 「熱い」と「caldo」

頭が熱くて【アマリタ下 p.238】 ho la testa calda 【p.274】

濃くて熱い液体【N.P p.29】 un liquido denso e caldo 【p.28】

熱いお茶【キッチン p.170】 un tè caldo 【p.101】

カツ丼のまだ熱いみやげ用パックを持ち【キッチン p.145】con il katsudon ancora caldo impacchettato 【p.86】

熱いコーヒー 【とかけ p.139】 un caffè caldo 【p.93】

熱い砂 【TSUGUMI p.133】 dei caldi granelli di sabbia 【p.92】

濃く熱いチャイ 【アムリタ上 p.225】 un chai denso e caldo 【p.123】

熱い手で 【TSUGUMI p.174】 con la sua calda mano 【p.118】

熱いてのひら 【アムリタ下 p.259】 il palmo caldo 【p.285】

熱い麦茶 【アムリタ下 p.89】 del mugicha caldo 【p.197】

(2) 体感温度

① 「寒い」と「freddo」

寒い朝 【キッチン p.53】 mattine fredde 【p.33】

風が寒い 【TSUGUMI p.169】 il vento è così freddo 【p.114】

寒い日 【とかけ p.79】 giorni freddi 【p.53】

寒い夜 【アムリタ下 p.291】 una fredda notte 【p.300】 (注 7)

② 「寒い」と「fresco」

少し肌寒い 【キッチン p.53】 un po' fresco 【p.33】

肌寒い 【キッチン p.125】 un po' fresco 【p.74】

③ 「涼しい」と「fresco」

涼しい風 【とかけ p.59】 il vento fresco 【p.42】

少し涼しい夜 【白河夜船 p.97】 una notte leggermente fresca 【p.65】

④ 「ぬるい」と「tiepido」

ぬるい空気 【アムリタ上 p.142】 aria tiepida 【p.81】

⑤ 「ぬるい」と「caldo」

せんぶうきのなまぬるい風 【TSUGUMI p.81】 l'aria calda che arrivava dal ventilatore 【p.58】

⑥ 「あたたかい」と「tiepido」

なまあたたかい 5月の朝 【アムリタ下 p.162】 una tiepida mattina di maggio 【p.235】

あたたかい陽射しのように 【TSUGUMI p.191】 come un tiepido raggio di sole 【p.128】

日だまりはあたたかく 【ハードボイルド／ハードラック p.110】 il sole era tiepido 【p.70】

なまあたたかい(夏の)夜の感触 【N.P p.37】 la sensazione delle tiepide sere d'estate 【p.35】

⑦ 「あたたかい」と「caldo」

あたたかい風【キッチン p.46】 un vento caldo【p.29】
 体はあたたかく【ハードボイルド／ハードラック p.126】 il corpo ancora caldo【p.77】
 あたたかい空気【アマリタ上 p.71】 aria calda【p.43】
 あたたかい車内【キッチン p.123】 nella macchina calda【p.73】
 こんなにあたたかい空の下【アマリタ上 p.237】 sotto un cielo così caldo【p.129】
 あたたかいベッド【キッチン p.36】 un letto caldo【p.24】
 部屋の中は…あたたかく【キッチン p.153】 in quella stanza calda【p.90】
 あたたかいストーブの熱気【キッチン p.213】 il vapore caldo della stufa【p.126】

⑧ 「暑い」と「caldo」

今日は暑いね【TSUGUMI p.207】 oggi fa proprio caldo【p.138】
 外はきっとまだ暑いのだろうけど【TSUGUMI p.63】 fuori doveva fare ancora caldo【p.46】
 かつと暑い強い光【不倫と南米 p.49】 qualche forte raggio caldo【p.33】
 暑くて晴れた日々【N.P p.62】 giornate calde e serene【p.53】
 部屋は暑いほどあたたまっていた【N.P p.26】 la stanza era molto calda【p.26】

§4 用例の分析 (1)

前節の対応例をここで要約しておこう。触感温度に関して言えば、「冷たい」には「freddo と fresco (注8)」が、「ぬるい」には「tiepido」が、「あたたかい」には「tiepido と caldo」が、「熱い」には「caldo (注9)」が、それぞれ対応している。体感温度に関して言えば、「寒い」には「freddo と fresco」が、「涼しい」には「fresco」が、「ぬるい」には「tiepido と caldo」が、「あたたかい」には「tiepido と caldo」が、「暑い」には「caldo」が、それぞれ対応している。これらの対応は、日本語の温度形容詞から見たイタリア語の温度形容詞の対応であり、それらの関係は第2図のようにまとめることができる。

第2図

触感温度		体感温度	
イタリア語	日本語	日本語	イタリア語
freddo	冷たい	寒い	freddo
fresco		涼しい	fresco
tiepido	ぬるい	ぬるい	tiepido
	あたたかい	あたたかい	
caldo	熱い	暑い	caldo

次に、イタリア語の温度形容詞から見た日本語の温度形容詞の対応であるが、それらの関係は第3図のようにまとめることができる。

第3図

日本語(触感温度)	イタリア語	日本語(体感温度)
冷たい	freddo	寒い
	fresco	涼しい
ぬるい	tiepido	ぬるい
あたたかい		あたたかい
熱い	caldo	暑い

つまり、「freddo」は「冷たい」と「寒い」に、「fresco」は「冷たい」と「涼しい」と「寒い」に、「tiepido」は「(触感・体感とも)ぬるい」と「(触感・体感とも)あたたかい」に、「caldo」は「(触感の)あたたかい」と「熱い」と「(体感の)ぬるい」と「(体感の)あたたかい」と「暑い」に、それぞれ対応している。

§5 用例の分析 (2)

ここでは日本語の温度形容詞が比喩的に使用されている用例を取り上げて分析・検討してみたいと思う。しかし、以下の(例7)(例8)に見られるように、温度形容詞での対応にならない場合が多いように思われる。すなわち、(例7)の「涼しい」はイタリア語訳では *indifferente* 「無関心な」となっており、(例8)の「あたたかい」はイタリア語訳では *piene di calore* 「情愛に満ちた」となっている。

(例7) 涼しい顔【キッチン p.113】 *la faccia indifferente*【p.68】

(例8) あたたかい言葉【白河夜船 p.172】 *parole piene di calore*【p.110】

但し、稀にはあるが、温度形容詞での対応が見られる場合も存在する。以下、用例を提示しよう。

(例9) テレビの音が空寒いほどよく響く【N.P p.177】 *il rumore della televisione risuonava freddo e metallico*【p.128】

(例10) 涼しい香り【白河夜船 p.72】 *un fresco profumo*【p.48】

(例11) 彼の態度が…冷たく【キッチン p.18】 *quel suo atteggiamento…freddo*【p.15】

(注10)

(例12) 冷たい瞳【キッチン p.154】 *i suoi occhi freddi*【p.90】

(例13) 冷たい人【白河夜船 p.38】 *un uomo freddo*【p.27】

(例14) 無邪気で冷たい言い方【アムリタ上 p.278】 *un tono allo stesso tempo diretto e freddo*【p.150】

(例15) 冷たく暗い気持ち【不倫と南米 p.40】 *sensazioni fredde e cupe*【p.26】

(例 16) (神様の)あたたかいまなざし【N.P p.126】 *il suo sguardo caldo*【p.94】

(例 17) 私は今、人がこの世で一番はじめに知る世にもあたたかい単語を口にした【アマリタ上 p.62】 *avevo appena pronunciato la prima parola nella vita di una persona, la più calda che esista al mondo*【p.39】

(例 18) 熱い気持ち【アマリタ上 p.238】 *una sensazione calda*【p.130】(注 11)

(例 19) 男女が向かい合っている熱い姿【アマリタ下 p.45】 *immagine calda di due persone*【p.174】

(例 20) 熱い感じ【アマリタ下 p.255】 *un'emozione più calda*【p.283】

これらの用例における対応の様態を確認しておこう。(例 9) では「寒い」が *freddo* と、(例 10) では「涼しい」が *fresco* と、(例 11~15) では「冷たい」が *freddo* と、(例 16)・(例 17) では「あたたかい」が *caldo* と、(例 18~20) では「熱い」が *caldo* と、それぞれ対応している。これらの対応はすべて、第 2 図・第 3 図の枠組みの中に包含されている点が注目に値すると思われる。

§6 まとめ

今回の調査・分析で明らかになった要点を列記しておこう。

- ①第 2 図から分かるように、日本語の温度形容詞では触感温度と体感温度との差異が関与的であるが、イタリア語では曖昧である。
- ②第 3 図から分かるように、イタリア語の温度形容詞は温度の低い順に *freddo*→*fresco*→*tiepido*→*caldo* と一列に並べることが可能であるが、日本語の場合は一列には並べられない。
- ③第 2 図から分かるように、日本人がイタリア語の温度形容詞を学習する際の困難なところは、(a)「冷たい」と「寒い」がともに「*freddo*」・「*fresco*」の 2 種に対応しているところと、(b)触感の「ぬるい」は「*tiepido*」のみと対応するのに、体感の「ぬるい」は「*tiepido*」・「*caldo*」の 2 種に対応しているところと、(c)「あたたかい」が触感・体感ともに「*tiepido*」・「*caldo*」の 2 種に対応しているところである。
- ④第 3 図から分かるように、イタリア人が日本語の温度形容詞を学習する際の最も困難なところは、「*caldo*」が「(触感の) あたたかい」・「熱い」・「(体感の) ぬるい」・「(体感の) あたたかい」・「暑い」の 5 種に対応しているところである。
- ⑤温度形容詞が比喩的に使用される場合、その対応関係は第 2 図・第 3 図の枠組みの中に包含されている。

注

- 1) 1964 年東京都生まれ。『キッチン』で海燕新人文学賞受賞、『TUGUMI…つぐみ』で山本周五郎賞を受賞。著書は世界各国で多数翻訳されている。

2) 本稿で使用したテキストは以下のとおりである（書物の発行年順）。

『キッチン』1990年、第61刷、福武書院

『TUGUMI…つぐみ』1992年、中公文庫

『白河夜船』1993年、第6刷、福武文庫

『とかげ』1996年、新潮文庫

『N・P』1996年、第21版、角川文庫

『アマリタ上』1997年、初版、角川文庫

『アマリタ下』1997年、初版、角川文庫

『ハードボイルド／ハードラック』2001年、初版、幻冬舎文庫

『不倫と南米』2003年、初版、幻冬舎文庫

吉本作品を採用した理由であるが、表現に無駄のない研ぎ澄まされたような文体ではなく、温度形容詞が比較的多用されていることと、イタリア語訳が多く出版されていることとに拠る。

3) 本稿で使用したテキストは以下のとおりである（書物の発行年順）。

Banana Yoshimoto : *Kitchen*, traduzione dal giapponese di Giorgio Amitrano, 1988, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *Tsugumi*, traduzione dal giapponese di Alessandro Giovanni Gerevini, 1989, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *Sonno profondo*, traduzione dal giapponese di Giorgio Amitrano e Alessandro Giovanni Gerevini, 1989, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *N.P.*, traduzione dal giapponese di Giorgio Amitrano, 1991, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *Lucertola*, traduzione dal giapponese di Giorgio Amitrano, 1993, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *Amrita*, traduzione dal giapponese di Giorgio Amitrano, 1997, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *H/H*, traduzione dal giapponese di Giorgio Amitrano, 2001, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

Banana Yoshimoto : *La piccola ombra*, traduzione dal giapponese di Alessandro Giovanni Gerevini, 2002, Giangiacomo Feltrinelli Editore Milano

4) 國廣哲彌編『日英語比較講座、第3巻「意味と語彙」』大修館 1981年、p.28

5) 國廣哲彌編『構造的意味論』三省堂 1979年、p.11。

6) 日下部文夫「語彙に構造があるか…相関体系をめぐって…」(柴田武編『言語の構造』(講座「言語」第1巻、大修館、1980年)所収 pp.185-217)

- 7) 同じ *notte* と *freddo* を構成要素とする句構造であるが、触感温度の「冷たい」が用いられている例が見られる。冷たい夜【キッチン p.124】 *un notte fredda*【p.73】。
- 8) *freddo* と *fresco* に関しては微妙な差異があることが、西川一郎編『和伊中辞典』1994、小学館、p.995 に記されている。すなわち“飲み物に関しては「温めても冷やしても飲む物」には *freddo* を用い、*caffè freddo* 「アイスコーヒー」、*latte freddo* 「アイスマルク」と言う。また「ふつう冷たくして飲む物」には *fresco* を用い、*aranciata fresca* 「冷えたオレンジジュース」、*birra fresca* 「よく冷えたビール」と言う”とある。
- 9) 西川一郎編『和伊中辞典』1994、小学館、p.1172 によれば、“「熱湯」は基本的には *acqua bollente* であるが、状況により *acqua calda* も使う”とある。
- 10) 「冷たい態度」では温度形容詞 *freddo* との対応が見られるのに、「あたたかい態度」では温度形容詞との対応が見られない。彼の態度があたたかく【キッチン p.18】 *quel suo atteggiamento… caloroso* (直訳：あの彼の心のこもった態度)【p.15】
- 11) 「熱い気持ち」では温度形容詞 *caldo* との対応が見られるのに、「あたたかい気持ち」では温度形容詞との対応が見られない。あたたかい気持ち【キッチン p.91】 *una sensazione di beatitudine* (直訳：至福の気持ち)【p.56】